

第二章 都市計畫の意義及其必要

第一節 都市の定義

都市計畫の一般的智識を得んとせば、先づ順序として都市とは一體何であるかを極めなければならぬ。都市は政治的にも經濟的にも或は又社會的にも特殊なる要素を有するものである。又都市は多數人口の密集群居して居つて、且其區域は比較的狭少で非農業的で、商工業が發達して交通運輸の便が良く行き渡つて居り而も一つの自治權を有して居るものであるとは學者の等しく稱へる所である。如斯要素を備へたるものが都市なりと看做されて居る、然しながら多くの場合交通の利便とか商工業の發達の程度などは極めて抽象的であつて、一定の尺度を以て之を量ることは困難なりとの事由から、今日は多くは人口の數又は其密度の多少を以て都市の標準として居る。1887年の萬國統計會議に於て、佛國の提案により人口2,000人以上の集團的居住地を以て都市の第一要件とすることになつた、之れ明に人口の多寡を以て都市の標準とせるものである、英國も亦大體之れを標準として居る、獨逸は2,000人以上の市街地を都市と認め之れを四階級に分類して居る、米國は2,500人乃至4,000人の集会的居住地を準都市4,000人以上を都市として取扱つて居る。最も都市は元來農村又は田園から發達せるものであつて、人類の集会的本能性と職業の近代的發達とによりて形成せられたるものなるが故に都市と云ふも地方と云ふも絶對的のものではない、只程度と觀念の相違とに依るものなりと云ひ得るも、今日に於ては都市の標準は大體人口の多寡を以て之を區別して居る。然して都市は其發達の原因又は人口等より之を分類せば

1. 城廓と都市 古代歐羅巴及支那の諸都市は多くは城壁を以て圍繞せられ周圍の村落と確然と區別せられた、中世紀に至りては純農村に在りても城砦を以て取圍まれたものが出來て、城廓の有無によりて都市と田舎とを區別することが不

適當となつた、殊に我國の都市の如きは全然城郭を有せざるものもある。

2. 職業と都市 住民の生活様式により都市と田舎の區別をせんとするものである、即都市は多くは商工業地にして田舎は農業地である、然しながら現今に於ては都市は漸次區域を擴大し、都市の區域内にも山林原野あり農耕地もある、又田舎の農業地にも工場の建設せらるゝもの多くあるも、大體に於て都市は商工業が多く田舎は農業が多いと云ひ得るも、之を以て都市と田舎との區別となすことは出来ぬ。

3. 人口密度に依るもの 大體に於て都市は人口の密度大にして農村は小なりと云ふことを得るも、然し乍ら此標準を定むることが困難である。況んや人口の密度の標準は國により異なるものなれば、之れを以て都鄙の區別となすことは亦困難である。

4. 行政上の名稱に依り區別すること 我國に於ては行政上の名稱を市町村に區別し、市は大體都市を指し町村は多くは田舎を意味するものなるも、大都市附近の町村に在りては人口 50,000 ~ 100,000 人のものありて市と稱する團體よりも人口の多きものがある。

東京市近郊町村にして王子町(188,990人)、澁谷町(191,640人)、荏原町(132,100人)西巢鴨町(113,900人)……昭和五年國勢調査に依れば人口 50,000 人以上の町村 21 ある。

5. 人口の多少によるもの 佛國にては1846年以來人口 2,000 人以上を都市とし其以下を田舎と稱して居る、1887年の萬國統計會議の結果之れが承認された、獨逸も亦此式を採用した、而して次の如く都市を分類して居る。

Gross stadt	100,000 人以上
Mittel stadt	20,000 ~ 100,000 人
Klein stadt	5,000 ~ 20,000
Land stadt	2,000 ~ 5,000

Land	2,000 人以下
------	-----------

米國にては古來人口 8,000 人を以て都市と田舎との區別をなした。英國は人口 10,000 人以上を都市として取扱つて居る。我國にては帝國統計學會にて便宜上次の如く區別して居る。

大都會	100,000 人以上
中都會	50,000 ~ 100,000
小都會	20,000 ~ 50,000
地方都會	10,000 ~ 20,000
村落	10,000 人以下

以上は勿論便利上の分類法にして理論的根據あるものではない。

第二節 都市の成因

都市の起源は可なり古いもので其發達の経路にも亦随つて種々異なるものがある、羅馬は一日にして成るに非ず都市は亦忽然として出来るものではない、人類は古來孤立して生存するものに非ずして集團的生活を好み、又夫れを餘儀なくせらるゝものである、然して都市は紀元前數百年既に存在して居たと稱せられて居る、彼のアテネ、ローマ、ボンベイ等は皆古代都市の風貌を備へて居たものである、而しながら都市が一般的に急速に發展したるは最近百年以來の事である、當初人類が少數集まりて村落をなし、次いで町を形造り更に人口の増加によりて遂に都市となるものであつて、其成因を大別すれば次の六種とすることが出来る。

- (a) Defence against Enemy
- (b) Commerce
- (c) Manufacture and Industry
- (d) Political Forces
- (e) Natural attractiveness and Healthfulness

(f) Social forces

(a) Defence against Enemy

戰國時代に於ては人間は自己及自己の屬する人種の生命財産を保護すべく互に集團生活をなし、他種類の襲來に備へ又外敵防禦の爲めに丘の上などに防備を目的として都市を建設した、希臘及北部伊太利に於て此例を見る、巴里も亦此例に屬するもので巴里は其昔セーヌ河の中之島にありて南北に池沼ありて防禦に便利の地であつた、中世に至りて城砦を築いたのも同様の理である、支那の都市も亦何れも外壁を築いて外敵に備へた、之等は城廓都市に屬するものである。

(b) Commerce

商品の運輸及交易に都合良き地點に町が出来て之れが発達して都市となるものである、交易は主に最初水邊に依り河又は海の船着の便利な所に町が出来、又道路鐵道の便なる所は貨物の積卸が便なる故を以て町が出来、是即商業の便なるが爲めに都市として発達して來るのである、Liverpool, San Francisco, Boston, Chicago, St. Louis, 神戸、横濱等之れである。

(c) Manufacture and Industry

産業革命以來工業は都市繁榮の重大なる要素となり十九世紀以來都市の急激なる發展は實に工業組織の一大變換に起因するものである、而して製造工業の盛となる要件は

- (1) 製造工業の原動力たる動力の豊富にして安價に得らるゝこと
- (2) 市場へ便利なること、交易市場にも金融市場へも
- (3) 運輸交通に便利なること
- (4) 労働者が容易に得らるゝこと
- (5) 原料が安價で且豊富に得らるゝこと
- (6) 工場住宅の建築に好都合にして工場敷地の安價に獲得せらるゝこと
- (7) 事業家が多く居ることは工業の起る最大要素である

(d) Political Forces

都市が政治の中心をなす場合がある、各國の主都即倫敦、巴里、華盛頓、伯林の如きが政治の中心として其國の發展及政治上の重要な位置に在りて益々膨脹する如きものである、然して其位置としては其國の中心であり、地方的に便利な地點である事を要す。

(e) Natural healthfulness and attractiveness of Site

景勝地保養地等は都市として發展の要素を有するものである、避暑地避寒地或は温泉郷等は之れである、ニース、モンテカルロ、別府、箱根、熱海等は此例として擧げることが出来る。

(f) Social forces

教育の中心地として發展せる都市にして Oxford, Cambridge 等は此例である、又美術工藝又は休養娛樂を中心とする歡樂郷として發達せる都市がある。

都市は以上述べたるが如く種々の發達の原因あるも、要するに其都市の經濟力の如何は其發達を左右するものであつて、經濟力豊富なる所に於ては其發展著しく天災地變に遭遇するも挫折せず、而も之れに打勝つて其發展を持続するものなるも、然らざる所に在りては一度打撃を受ければ遂には再び起つ能はざるに至るものがある、1666年の倫敦、1906年の桑港、及大正十二年の東京横濱の大火災は夫々一時都市を潰滅に近からしめたも、忽ちにして復興して今日に於ては却て昔日の面目を一新し、轉禍爲福の感あるは一つは其帝都たるに緣由する所あるも、又經濟力の確固たることを示す證左である。

第三節 近代都市の發展と其特征

歐羅巴古代の都市は何れも宗教、教育、又は政治を以て都市の生命としてゐた中世紀に至りては都市は概ね防備を以て其生命となした、然るに近代都市に在りては十八世紀の末葉に於ける蒸氣力電氣力の發明により、産業組織に一大變換を

來し都市經營の根本義が一變し來り商工業を以て其生命となすに至つた、然して従來手工業又は家内工業等の小規模なる工業組織が全く一變して大工業組織となり産業界の一大革命を來した、如斯工業組織の一大變換と共に社會的に經濟的に又其他種々の關係に於て大工業を營む工場が、都市及其附近に勃興するに至り其結果近代の都市殊に商工業の盛なる都市に於ては、人口は急激に集中増加して來た、然して都市は比較的容易に職を求めらるゝこと、各種享樂の自由なること等の事情から人々は競ふて都市に集まり、爲めに都市の發展は實に急激なるものとなつた、斯くして人口の都市に集中する現象は世界各國現代都市の共通の事象となつた、米國は南北戦争以後に於て、獨逸は獨佛戦争後、都市の人口の増加は非常に著く英國又同時代に於て實に急激なる人口の増加を示した、即米國に於ては

第 1 表

TOTAL AND URBAN POPULATION AT EACH CENSUS
of The United States 1790~1920

Census year	Total population	Urban population	Number of places	Percent of urban of total population
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1790	3,929,214	131,472	6	3.3
1800	5,308,483	210,873	6	4.0
1810	7,239,881	359,920	11	4.9
1820	9,638,453	475,135	13	4.9
1830	12,866,020	864,509	23	6.7
1840	17,069,453	1,453,994	44	8.5
1850	23,191,876	2,897,586	85	12.5
1860	31,443,321	5,072,256	141	16.1
1870	38,558,371	8,071,875	226	20.9
1880	50,155,783	11,365,698	285	22.7
1890	62,947,714	18,244,239	445	29.0
1900	75,994,575	25,018,335	547	32.5
1910	91,972,266	35,570,334	768	38.7
1920	105,710,620	46,307,640	924	43.8

Population of places of 8,000 or more at each census.

第 2 表

TABLE SHOWING THE INCREASE IN NUMBER OF LARGE CITIES IN THE UNITED STATES BETWEEN 1860 AND 1920

Number of cities with population above	1860	1870	1880	1890	1900	1910	1920
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
25,000	32	50	77	125	161	229	287
50,000	15	24	35	58	79	109	144
100,000	8	13	20	28	38	50	68
500,000	2	2	4	4	6	8	12
1,000,000	0	0	1	3	3	3	3

第 3 表

Showing Rate of Increase of Urban and Rural Population
in The United States between 1910 and 1920

Class of Towns Population	No. of Towns		Total Population		Percent Increase 1910~1920
	1910	1920	1910	1920	
1,000,000 or more	3	3	8,501,174	10,145,532	19.3
500,000 to 1,000,000	5	9	3,010,667	6,223,769	106.7
250,000 to 500,000	11	13	3,949,839	4,540,838	40.3
100,000 to 250,000	31	43	4,840,458	6,519,187	34.7
50,000 to 100,000	59	76	4,178,915	5,265,747	26.0
25,000 to 50,000	119	143	4,020,045	5,075,041	26.0
10,000 to 25,000	367	459	5,524,856	6,942,742	25.7
5,000 to 10,000	612	721	4,254,434	4,997,794	17.5
2,500 to 5,000	1,106	1,320	3,879,732	4,593,953	18.4
Total Urban Population	2,313	2,787	42,166,120	54,304,603	28.8
Rural Population	49,806,146	51,406,017	3.2
Total Population of U.S.	91,972,266	105,710,620	14.9

1850年には全人口の12.5%が人口8,000人以上の都市居住者であつた、1920年には43.8%が都市居住者となり、遂に今日に於ては人口六百萬人を包容する紐育市及三百萬人を有する市俄古市が現出し、全國人口の約半數が都市生活者であることは第1表に示す通りである。

又全國人口と都會人口及村落人口との増加率を示したものは第 3 表である。

獨逸都市は米國の夫れより其發展一層急激である、即 1870 年の調査によれば全國人口の 25% は人口 5,000 人以上の都市居住者であつた、當時人口 100,000 人以上の都市は僅かに九都市のみなりしが 1910 年に於ては人口 500,000 人以上の都市が七市を算し(伯林、漢堡、ミンヘン、ライプテツ)、50~30 萬人の都市が四市、30~20 萬人が十二市、20~10 萬人が二十四市を算した、即人口十萬人以上は四十七都市となり全國人口の 26.7% を示した。

第 4 表

Showing the Increase in Population of Six German and Six American Cities from 1880 to 1920

Cities	Population					Percent of Increase	
	1880	1890	1900	1910	1920*	1880 to 1920	1910 to 1920
	Cincinnati	255,139	293,309	325,902	363,591	401,247	57
Breslau	272,900	335,200	422,728	510,929	528,260	94	3
Buffalo	155,000	255,664	352,387	423,715	506,775	227	20
Cologne	144,800	281,800	372,229	513,491	633,904	338	23
New Orleans	216,000	242,039	287,104	339,075	387,219	79	14
Dresden	220,800	276,500	395,394	546,822	529,323	140	- 3
Louisville	123,758	161,005	204,731	223,928	234,891	90	5
Hanover	122,800	163,600	235,666	302,384	310,431	153	3
Providence	104,850	132,099	175,597	224,326	237,595	127	6
Nuremberg	99,519	142,523	261,022	332,539	352,675	254	6
Rochester	89,366	133,893	162,608	218,149	295,750	231	36
Chemnitz	85,000	138,955	206,584	286,455	303,775	257	6

*Population for German cities in 1920 are from "Statesmen's Year Book" for 1921 and are as of Oct. 9, 1919.

第 4 表は獨米兩國の同一程度の都市の發達の過程を比較したものである。如斯近代都市の發達の顯著なるは、古代若くは中世時代の都市の比に非ざる事を知る事が出来る、米國獨逸及濠洲の諸都市の如き新興都市に在りては五年十年の間に人口の倍加せるものは少くない。

第 5 表 (1) 世界大都市人口増加比較 (人口五十萬以上)

都市名	1920 年頃		1910 年頃		1900 年頃		1850 年頃		1800 年頃	
	調査年	人口數	調査年	人口數	調査年	人口數	調査年	人口數	調査年	人口數
Great London	1921	7,476,168	1911	7,252,933	1901	6,581,402	1851	2,680,935	1801	1,114,644
New York	1920	5,620,048	1910	4,766,883	1900	3,437,202	1850	693,115	1800	79,216
London	1921	4,483,249	1911	4,522,931	1901	4,536,267	1851	2,362,236	1801	864,845
Great Berlin	1921	3,803,770	1910	3,422,741	1900	2,528,730	1852	464,426	1801	182,923
Paris	1922	2,906,472	1911	2,847,229	1901	2,660,559	1851	1,053,262	1801	546,756
Chicago	1920	2,701,705	1910	2,185,283	1900	1,698,575	1850	29,963	1840	4,500
東京	1920	2,173,162	1910	1,805,800	1900	1,497,565				
Vienna	1920	1,841,326	1910	2,031,498	1900	1,674,957	1851	431,147	1800	231,949
Philadelphia	1920	1,823,779	1910	1,549,008	1900	1,293,697	1850	121,376	1800	41,220
大阪	1920	1,252,972	1910	1,239,373	1900	881,344				
Budapest	1921	1,184,616	1910	830,371	1900	716,476				
Rio de Janeiro	1920	1,157,873	1913	975,818		800,000				
Moscow	1920	1,050,011			1897	938,614				
Glasgow	1921	1,034,069	1911	784,493	1901	841,048				
Detroit	1920	993,678	1910	465,766	1900	285,704	1850	21,019		
Hamburg	1919	985,779	1912	953,079	1900	705,738				
Birmingham	1921	919,438			1901	522,182				
Liverpool	1921	803,118	1911	746,421	1901	684,947				
Cleveland	1920	796,841	1910	660,663	1900	381,768	1850	17,034		
St. Louis	1920	772,897	1910	687,029	1900	575,238	1850	77,860		
Boston	1920	748,060	1910	670,585	1900	560,892	1850	136,881	1800	24,937
Baltimore	1920	733,826	1910	558,485	1900	508,957	1850	169,054	1800	26,514
Manchester	1921	730,551	1911	714,333	1901	543,969	1851	228,000	1800	75,000
Munich	1919	630,711	1910	593,467	1900	499,932				
神戸	1920	605,628	1910	401,933	1900	274,449				
京都	1920	591,305	1910	470,033	1900	371,600				
Pittsburgh	1920	588,343	1910	533,905	1900	451,512	1850	67,863	1800	1,565
Marseille	1921	536,341	1911	550,619	1901	491,161		1,610		
Barcelona	1918	582,240	1910	550,619	1817	509,598				
Los Angeles	1920	576,673	1910	319,198	1900	102,499	1850			
Dresden	1919	529,326	1910	546,822	1900	395,394				
Breslau	1919	528,260	1910	510,929	1900	422,928				
Cologne	1919	633,904	1910	513,491	1900	372,229				
Buffalo	1920	506,775	1910	423,715	1900	352,387	1850	42,261		
San Francisco	1920	506,676	1910	416,912	1900	342,782	1850	34,776		

第 5 表は人口五十萬人以上世界著名の都市の人口増加の趨勢を示すものである。

英京倫敦は今日世界第一の都市と稱せらるゝも遡りて十九世紀の初めに於ては人口未だ百萬人に充たざりしが、十九世紀の中葉に至りては 236 萬人を有するに至り、今日に於ては其郊外地域を合したる大倫敦は實に 750 萬人を包容するに至り、尙も駭々乎として其發展を底止する所を知らぬ、Charing Cross を中心として半徑十五哩の圓圏内に發達した大倫敦は、瞬く間に半徑三十哩の圓圏内に驚くべき勢を以て膨脹し、夫自身が一の龐大なる世界を現出した次第である。

佛蘭西巴里も亦十九世紀の始めに於ては人口僅かに 54 萬人を有し、我國神戸、横濱級の都市なりしが、今日に於ては人口 300 萬人を超ゆる大都市となつた。

獨逸伯林に在りては十九世紀の始めに於ては人口僅かに 17 萬人にして、我廣島、長崎位の都市なりしが、今日は郊外の大地域を合併して大伯林を形造り、人口實に 380 萬人を有し巴里を凌ぐ大都市となつた。

如斯大陸諸都市も人口増加の趨勢著しきものもあるも、新興米國に於ては殊に其顯著なるものがある、即紐育市は 1800 年には人口僅かに 80 萬人の都市なりしが、今日は大倫敦に亞ぐ人口 600 萬人を有する世界第二の大都市となつた。又米國第二の大都市市俄古は 1840 年には人口僅かに 4,500 人を有するミシガン湖畔の一寒村に過ぎざりしが、今日は人口 300 萬人を有する都市となつた、即 80 年間に 660 倍にも増加した。

如斯大都市を例外とするも中小都市に在りても 20~30 年間には人口が倍加するもの實に枚擧に遑かない。是れは獨り歐米都市に於てのみ起る現象でなくして我國に於ても東京、大阪等の大都市は勿論其他の中小都市に在りても二、三十年間には人口倍加し、其接續郊外地に膨脹發展し人口の急激に増加せることは實に近代都市の特徴である。

第四節 市域の擴張

都市の區域は第一新なる市制施行に依るものと、第二既存都市の隣接町村の併合に依り擴大せらるゝものとの二種よりなる。明治二十二年始めて我國に市制町村制が施行せられた時、全國の市制施行地は僅か三十九なりしが、昭和五年末に於ては百九を算するに至つた。(附録市制施行後各年末現在市數參照)

第 6 表 市町村數の變遷

年次	明治22年	同 31	同 36	同 41	大正 2	同 7	同 9	同 14	昭和 5
市	39	52	60	66	69	69	83	100	109
町	715	1,169	1,121	1,164	1,248	1,333	1,366	1,510	1,625
村	12,832	13,557	12,351	11,223	11,033	10,839	10,782	10,451	10,180
計	13,386	14,778	13,532	12,453	12,348	12,241	12,231	12,061	12,914

市域の擴張による隣接町村の併合は最近都市の異常なる發展と都市計畫法が施行せられ、其都市計畫區域に編入せられたる結果各郊外町村が、其都市と密接なる關係にある事を痛切に感ずる所となり漸次意識的となり、一轉して市域併合の機運を作る原因となつた様である、即明治二十二年市制施行當時に於ては市區の數は三十九にして此人口總數 386 萬人で全國人口の約一割に過ぎなかつたが、現在市の數百九となり此人口總數は 15,442,215 人にして、全國人口の二割四分を占むるに至つた。而して明治二十二年より昭和五年に至る四十四年間に於て全國人口が 165% の増加率を示せる間に都市人口は 400% の大増加を現して居る。以て都市人口の急激なる増加は、諸外國の夫れと規を一にせると言ふ事が出来る。

第 7 表 都市人口増加表

年次	明治 21 年	昭和 5 年	増加率(%)
全國人口	39,069,691	64,447,724	165
都市人口	3,863,648	15,442,215	400
都市人口の全國人口に對する比率(%)	9.6	24.0	
都市數	39	109	

第 8 表 の 一

各市人口増加表 (現在人口 100,000 人以上)

	明治 22 年	明治 31 年	明治 41 年	大正 9 年	大正 14 年	昭和 5 年
大 阪	472,247	811,855	1,217,765	1,252,983	2,114,804	2,453,569
東 京	1,375,937	1,425,366	1,626,103	2,173,201	1,995,567	2,070,529
名 古 屋	157,496	240,534	374,146	432,349	768,558	907,402
神 戸	134,704	214,119	377,208	608,644	644,212	787,596
京 都	279,792	353,139	441,264	643,242	679,963	765,142
横 濱	121,985	191,251	392,870	422,938	405,888	620,296
廣 島	84,873	122,306	142,763	160,510	195,731	270,365
福 岡	48,850	66,190	82,106	95,831	146,005	228,290
長 崎	43,669	107,422	176,480	176,534	189,071	204,179
函 館	52,693	78,040	87,875	144,749	163,972	197,252
吳	—	—	100,679	30,362	138,863	190,265
仙 臺	77,515	83,325	97,944	118,984	142,894	190,177
札 幌	14,389	37,482	70,084	102,580	145,065	168,575
八 幡 幡	—	—	22,767	100,235	118,376	168,218
熊 本	52,189	61,463	61,233	70,388	147,174	164,449
金 澤	96,752	83,662	110,994	129,265	147,420	157,309
小 樽	11,984	56,961	91,281	108,113	134,469	144,884
岡 山	43,885	58,025	93,421	94,585	124,521	139,221
鹿 兒 島	47,512	53,481	63,640	103,180	124,734	137,232
靜 岡	40,555	42,172	53,614	74,093	84,772	136,481
佐 世 保	—	37,485	93,051	87,022	95,385	133,172
新 潟	44,761	53,366	61,616	92,130	108,941	125,106
堺	45,005	50,203	61,103	84,999	105,009	120,347
和 歌 山	55,097	63,667	77,303	83,500	95,622	117,437
横 須 賀	24,366	24,750	70,964	89,879	96,351	110,304
濱 松	13,919	19,855	32,381	64,749	92,152	109,475
門 司	—	25,274	55,682	72,111	95,087	108,127
川 崎	—	—	—	21,391	54,634	104,346

第 8 表 の 二

各市人口増加表 (現在人口 60,000 以上 100,000 未滿)

	明治 22 年	明治 31 年	明治 41 年	大正 9 年	大正 14 年	昭和 5 年
豐 橋	11,645	21,785	43,980	65,163	82,371	98,554
下 關	32,384	42,786	58,254	72,300	92,317	98,549
大 牟 田	—	19,291	45,681	64,317	68,256	97,297
高 知	31,209	36,511	38,279	49,329	65,723	96,991
徳 島	60,080	61,501	65,561	68,457	74,545	90,633
岐 阜	26,002	31,942	41,488	62,713	81,902	90,114
小 倉	14,800	27,504	31,615	33,954	51,663	88,049
前 橋	21,636	34,495	45,183	62,325	73,688	84,925
久 留 米	20,738	29,008	35,928	43,629	72,221	83,608
旭 川	—	—	40,453	61,311	72,341	82,514
松 山	34,410	36,545	44,166	51,250	58,292	82,479
宇 都 宮	23,200	32,069	47,114	63,771	76,138	81,380
高 松	38,294	34,416	42,578	46,550	71,897	79,907
甲 府	24,468	37,561	49,882	56,207	68,275	79,446
青 森	15,449	28,029	47,206	48,941	58,794	77,100
富 山	55,300	59,558	57,437	61,812	67,490	75,099
長 野	27,156	31,319	39,242	37,308	66,555	73,912
松 本	15,261	31,324	35,011	49,999	63,427	72,141
岡 崎	13,233	17,409	24,824	38,527	44,556	65,507
岡 井	39,853	44,286	50,393	56,639	59,947	64,200
山 形	28,880	35,300	42,234	48,399	55,994	63,423
盛 岡	32,924	32,989	36,012	42,403	50,030	62,255
姫 路	25,466	35,282	41,028	45,750	55,713	62,174
宇 部	—	—	11,803	38,063	48,750	61,171
那 覇	26,340	35,453	47,562	53,882	54,643	60,357

第 8 表 の 三

各市人口増加表 (現在人口 40,000 以上 60,000 未満)

	明治 22 年	明治 31 年	明治 41 年	大正 9 年	大正 14 年	昭和 5 年
高 崎	22,900	30,893	39,961	36,792	45,698	59,923
長 岡	—	—	35,376	41,627	53,156	57,866
若松(福岡)	—	12,101	27,774	49,336	49,930	57,326
大 分	15,512	13,045	29,547	43,150	53,352	57,294
津	16,031	33,287	41,229	47,741	52,536	58,088
室 蘭	—	—	20,335	56,082	50,040	55,857
清 水	—	—	—	10,141	46,339	55,664
宮 崎	—	—	13,849	21,116	42,945	54,596
八 戸	10,468	11,370	16,109	18,255	21,036	52,908
桐 生	17,504	23,991	32,189	37,674	42,553	52,906
奈 良	24,763	30,539	32,732	40,301	48,879	52,781
八 王 子	19,320	23,203	27,550	38,955	45,288	51,883
四 日 市	13,892	25,220	30,704	35,165	40,393	51,811
高 岡	19,736	31,490	33,603	36,648	42,660	51,760
戸 畑	—	—	—	33,824	37,748	51,674
鋼 路	—	—	17,905	39,392	42,332	51,584
郡 山	—	11,859	18,133	26,218	42,984	51,364
宇 治 山 田	21,715	27,900	37,539	33,270	44,803	51,079
秋 田	29,454	29,477	36,294	36,281	43,887	51,069
水 戸	21,807	33,778	38,435	39,363	46,527	50,647
尼 崎	12,533	15,066	19,888	38,461	44,241	50,035
千 葉	20,324	26,233	33,341	33,179	41,806	49,086
佐 賀	25,584	32,753	36,051	33,528	42,160	46,178
福 島	13,919	20,624	33,493	35,762	41,379	45,691
米 澤	28,714	30,719	35,380	43,007	40,749	44,731
松 江	33,324	34,651	36,209	37,527	41,393	44,496
宇 和 島	11,466	13,366	12,358	21,923	38,534	44,281
沼 津	10,089	12,094	13,693	20,993	38,042	44,026
足 利	13,397	21,348	38,908	33,637	39,401	43,896
今 治	11,827	14,913	16,765	30,293	37,713	43,730
若松(福島)	20,820	29,200	39,265	37,549	41,925	43,729
弘 前	36,463	34,771	37,437	32,767	36,293	43,338
別 府	—	—	14,045	23,647	37,529	43,076
一 宮	10,840	28,496	32,682	27,263	34,746	42,229
直 方	—	—	—	—	—	40,072

第 8 表 の 四

各市人口増加表 (現在人口 40,000 以下)

	明治 22 年	明治 31 年	明治 41 年	大正 9 年	大正 14 年	昭和 5 年
西 宮	11,209	13,896	18,396	28,428	34,425	39,361
明 石	19,351	21,196	25,951	33,107	37,244	38,956
大 塚	16,671	18,995	21,762	28,334	33,639	38,496
福 山	14,587	17,321	18,081	29,768	34,048	38,215
瀬 戸	—	—	14,112	22,185	31,279	37,304
島 取	26,022	28,496	32,682	29,274	35,120	37,189
都 城	11,587	13,156	18,345	25,741	30,421	35,510
上 田	12,067	24,114	23,838	26,271	32,589	35,133
岸 和 田	12,929	—	—	29,306	32,050	35,102
大 津	24,214	34,225	42,869	31,453	33,779	34,380
鶴 岡	19,576	20,461	21,056	28,220	31,830	34,317
川 越	17,046	19,092	26,031	24,675	31,905	34,204
津 山	15,306	12,330	16,191	17,085	17,645	34,159
米 子	12,948	16,088	19,291	22,411	26,736	33,632
伏 見	20,693	21,515	24,883	26,879	30,544	31,538
山 口	13,332	17,387	21,100	25,297	28,409	31,322
高 田	—	20,315	28,021	28,388	30,897	30,934
倉 敷	—	—	—	12,864	14,209	30,114
尾 道	18,002	22,312	30,367	26,466	27,740	29,084
丸 龜	17,241	24,977	27,079	24,480	27,971	28,842
中 津	15,272	15,249	18,329	13,602	24,505	28,562
首 里	25,790	24,809	25,141	22,838	20,582	20,118

第 9 表 (1) 市部人口と郡部人口(内地)

年 次	市 数	全國人口總數	市 部 人 口	郡 部 人 口	比 率		
					全國人口	市 部	郡 部
大正 9	83	55,963,053	10,096,758	45,866,295	100	18.0	82.0
大正 14	101	59,736,822	12,896,850	46,839,972	100	21.6	78.4
昭和 5	109	64,447,724	15,442,215	49,005,509	100	24.0	76.0

(2) 現在市域に於ける人口の増加

年 次	人 口	前回國調との間の増加數	前回國調との間の増加率(%)
大 正 9	12,249,855	—	—
大 正 14	13,701,457	1,451,602	11.84
昭 和 5	15,442,215	1,740,758	12.70

(3) 現在市域に於ける大都市の人口増加

年次	人口	前回國調との間の増加數	前回國調との間の増加率 (%)	備考
大正 9	6,285,259	—	—	六大都市
大正 14	6,778,344	493,085	7.84	
昭和 5	7,604,534	826,190	12.18	
大正 9	2,548,744	—	—	其の他 22 都市 (人口 100,000 以上)
大正 14	2,938,450	439,706	17.25	
昭和 5	3,525,211	536,761	17.96	

第 8 表は全國人口増加の趨勢を示すものである。

第 9 表は最近十年間の人口増加の數を示したものである。(1)は各國勢調査當時の現勢であつて(2)は現在の市域に付いての人口數を示したものである。現在人口十萬人以上の大都市は二十八市ある。其内六大都市と他の二十二都市の人口増加の趨勢を示したものは(3)である。此表に示すが如く六大都市の人口増加數は他の二十二都市の夫れに比較すれば非常に大なるも、其増加率に至りては二十二都市の増加率は六大都市の夫れよりも大にして、尙全國平均率よりも大なり。即中都市の人口増加の趨勢は大都市に比して著しく大なる事は注意すべき事である。

第五節 人口の都市集中と其弊害 及都市計畫の理想

前述の如く最近都市に人口が急激に集中増加する事は、一面産業の異常なる發達と經濟組織の進展とを促し、又都市の文化を促進せしめ、都市發展の著大なるを示すものなりと雖も、亦翻つて其内面的考察をなすに人口が都市に急激に増加する事は種々の弊害を持來するものなる事を感じずには居られぬ。即人口が急激に増加すれば従つて其區域も自然に擴張せねばならぬ、然るに多くの都市は何等合理的發展の用意なく無秩序に、且自然の膨脹に放任せしめたるが故に、都市を

して只徒に尨大ならしめたに止まり、益々秩序を感亂し都市生活を混亂せしめたのみで社會的施設之に伴はず、交通機關其他公共施設も之が實現を見ず、都市の膨脹に順應せず人口は過密の状態となり、交通の混雜を來し衛生状態は著しく不良となり、流行病の蔓延を來し都市の住民をして都市の諸有る強烈なる刺戟と騒音等より避難せしむべき安息所を與へず、都市生活者の殆ど大部分が神經衰弱症に罹れるの觀を呈せしめた結果、都市に於ける死亡率は著しく高まり、又火災の頻發は一時に多數の人命をさへ失ふ事あり、又一時に巨萬の富を烏有に歸せしむる場合もある。又住宅問題其他各種社會施設の缺如は都市民活動の効率を減退せしめ、不良少年及浮浪者は益々都市に集まり、各種犯罪の動機を増大せしむる等種々の弊害を持來し、都會の多數市民は完全に人間生活を享受する事が不可能なる状態に置かれて居る。人間は元來祖先より自然に接觸する事により生活して居るが、今や都市の過群生活は住宅には日光の直射を受くる餘地もなく、通風亦不完全にして益々自然より遠かりたる環境に生きねばならぬ状態におかれたる事を想ふ時に都市生活の如何に悲惨なるかを想像するだに戰慄せしむるものがある、是等は何れも都市に於ける過密生活より來る弊であつて萬人の認むる所である。之れ畢竟するに都市が其發展に際して、當初一定の計畫を樹てず自然の膨脹に放任せる結果に外ならぬ。都市が有機的に發達する以上都市の將來永遠に亘りて市民の福利を増進せしめ、都市生活をして益々快適ならしめ、都市の商工業をして愈々發展せしむるには、都市の改造と都市の合理的發展を策すべき都市計畫の必要が痛感せらるゝ所以である。元來都市計畫の理想は單に市民の住心地良き都市を造り、或は都市の美觀を整へ又は都市の裝飾を爲すが如きものではなく、要は市民生活の向上を圖り都市の發展を策し、統制ある計畫の下に市民生活の環境を改善し、最も秩序的に且道徳的に、永久に亘りて市民の幸福を増進せしめんとするものにして、只に現代市民の經濟的施設をして直に收穫を得ざれば満足せざるが如き近視眼的計畫は之を採らざる所である、將來永久に亘りて苟くも市民の不利

益不經濟となるべき弊害を除去し、其内容を豊富にし以て都市の秩序ある且統制ある發達を爲さしむる合理的計畫を爲すにあるのである。斯るが故に都市計畫は只に既成市街地の改造を行ふもののみならず、將來の發展に對して合理的遠觀的計畫を必要とし、以て都市の發展を善導せんとする科學的創作を意味するものである、前者は即對症療法で後者は之れ豫防である、都市計畫の理想は改造に非ずして創作である、改造は多くの冗費を必要とし市民の蒙むる損害多くして効果極めて小なるに反し、新設創作は少額の費用を以て巨大の利益を収め得るものである、然れども我國多くの都市は從來餘りにも亂雜、且無秩序に膨脹して來たものであるから郊外地の計畫を爲さんと欲せば、先以て中樞部の改造を必要とするは亦止むを得ざる事象である、尙之れを具體的に次の各項目に付いて説明すれば、

1. 交通上の問題 最近自動車の利用發達に依り、交通機具の一大革命を來した、從來の運輸機關として用ひられたる人力車、牛馬車及手押車等は何れも其速力緩にして積載量亦從つて小である、且交通頻度も極めて少かりしが最近自動車の普及は人力車及牛馬車の領分を犯すに至つた結果、道路幅員も從來は三間乃至四間にて充分なりしものが、速力大なる自動車の通行頻繁を加へ、從來の幅員にては到底其交通を司る事が不可能となり、一面産業の發展に依りて交通の激増を來し、在來道路のみにては到底交通の圓滑を期する事が出來ない様になり、現在既に危險状態に在る。況や將來の交通に應ぜんとせば其都市の發展に先ち一定の計畫の下に合理的對策を確立し、以て將來の交通問題に應へ市民生活を便利にし、併せて商工業的能率を増進せしめ以て都市をして益々發展せしめなければならぬ、之れ都市計畫の施設として先づ以て道路網及運河網の根本計畫を確定せざる可らざる所以である。都市に於ける交通機關たる路面電車、高速交通機關及公園遊園地の配置等は、皆之れ街路網の決定を俟たざれば完全なる計畫を決定する事不可能であるからである。

2. 衛生上の問題 都市に人口が急激に増加すれば其所に過密生活の現象を呈

し、衛生上種々の弊害を惹起せしめ、爲めに都市が多くの場合傳染病の發生地となり、又都會病とさへ稱さるゝ肺結核病患者の多數を生ずるに至りしは、之れ全く過群生活より來る所の弊にして一時に多數の人命を奪ひ、活動力を減少せしむるは國家的一大損害を來すものである、是即都市に衛生施設を必要とする所以であつて、都市計畫の施設として上下水道、公園、遊園、運動場等の統一的計畫を必要とする所以である。

3. 保安上の問題 都市は火災に依り一時に巨萬の財貨を失ひ幾多の人命をも奪はるゝ事がある、實に火災は都市に於ける一大脅威である。彼の1666年倫敦の大火、及1906年桑港の大火、近くは大正十二年の關東地方の大震大火は、何れも夫々國家的一大損害であつた。然して火災に因る損失は絶對的にして多くは都市の集團的生活が其原因をなすものである。斯るが故に都市に於ては保安施設として防火地區を設定し、防火建築を強制し以て火災に因る損害を減少せしめんとする所以である。

4. 地域制の問題 從來都市は多くは自然の發達膨脹に放任せられたれば、工場が住宅の庭先に建築せられたり、又厩舎が公園に面して建てられた等の現象は餘りに多くして枚擧に遑がない、都市計畫は是等無秩序を防止して將來の發展をして秩序あらしむべく住居の安寧を保持し、商工業の能率を増進せしめん爲め各種地域の指定をなして以て郊外地の統制を計らなければならぬ、之れ都市計畫として地域の制定を必要とする所以である。